

統合IT基盤ソリューション「VITA」で IT資産のTCO削減をトータルに支援

既存IT資産の有効活用やTCO (Total Cost of Ownership) 削減が求められる中、当社は、統合IT基盤ソリューション「VITA」(ビータ) の積極的な提案を行っています。「VITA」の最大のメリットは、IT分野に不可欠な構成要素をベスト・オブ・ブリード方式で提供することで、単一ソリューションや他社の提供するサービスでは得られない付加価値を提示できることです。豊富なサービスメニューも用意し、お客様のIT基盤構築から運用管理に至るさまざまな場面で、TCO削減に向けた包括的ソリューションを提案していきます。

最適なソリューションを 組み合わせて提案

より厳しさを増す経済情勢の中、既存IT資産のTCO削減は、多くの企業で重要なテーマの1つとなっており、システムの仮想化などのキーワードも注目を集めています。しかし、サーバ統合など、単一ソリューションの導入によるTCO削減効果は、当面の資産償却や人件費に限定されたり、導入後に新たな運用負荷が発生したりと、根本的な経営テーマの解決まで至らない場合も多く見られるようです。

こうした現状に対し、当社は、IT基盤を構成するサーバ、ストレージおよびネットワークの統合、情報セキュリティ、ITIL運用管理、IT資産管理の6分野にフォーカスした包括的な統合IT基盤ソリューション「VITA」(Virtual Integration Total Architecture: ビータ)を提供しています(図-1)。

VITAの最大の特徴は、単一ソリューションでは得られない付加価値をベスト・オブ・ブリード方式、すなわち、より良いソリューションの組み合わせで提案する仕組みです。当社は、SIerとして基幹システムのアプリケーション開発とサポートに豊富な実績を持っています。プラットフォーム分野にとどまらず、アプリケーション領域も包含したトータルソリューションを提供できる技術力とサポート力を活かして、お客様のIT資産有効活用と真の運用コスト最適化を実現しようというのが、VITAのコンセプトです。

VITAは、仮想化システムの導入から運用までのあらゆるプロセスで、他社にはない付加価値を提供していくことを目指しています。

TCO削減効果を 最大化

VITAが提供する付加価値にはさまざま

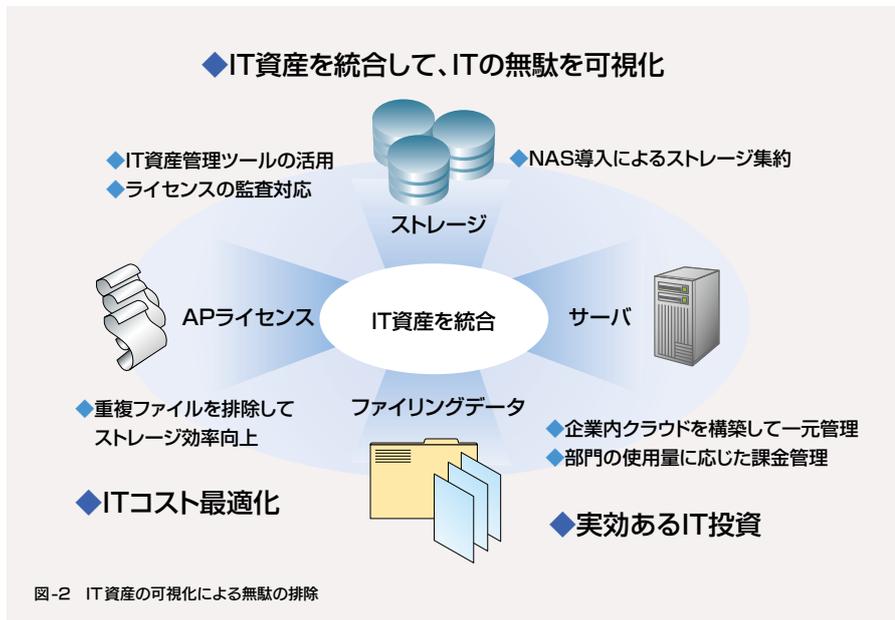
なものがありますが、とりわけ、お客様の最大の関心事であるTCO削減に対しては、その効果を最大化するというメリットを掲げています。

TCO削減に当たっては、実装の前段階でデータ収集に基づく現状把握とさまざまな角度からの分析が必要となります。当社は、お客様のIT環境とビジネスの関係を分析する独自のアセスメントシートを用意し、ベンダが提供するツールと組み合わせてお客様の計画立案をサポートしています。

当社が経験したビジネスの事例から、仮想化システム導入前の設計段階において、考慮すべき幾つかの注意点を見出しています。一例を挙げると、複数の物理サーバを仮想サーバに統合する際に、必要となるOSライセンスをどう割り当てるか、という点では、仮想サーバのハードウェア構成とOSライセンス体系の組み合わせによって導入費用に大きな差が生じる場合があります。ほかにも、ネットワークやストレージのパフォーマンス設計、仮想マシンの冗長設計やバックアップ設計など、仮想化システムならではのノウハウを提供します。

また、システム運用には、スピードと柔軟性に関するさまざまな課題が伴います。システム変更時の作業手順が属人化し、手作業で設定変更が行われるなど、システムリソースの調達に必要以上に時間がかかるケースが見られます。システム運用にかかる負荷低減を図るため、現場ではシステ





視化することによる無駄なライセンスの削減、仮想化システムのリソース利用状況の数値化による部門の使用量に応じた課金管理の実施など、IT資産の可視化によって無駄を削減し、ひいてはITのライフサイクル全体のコスト最適化を図ることが可能となります。

クラウド活用を含めた ベストな解決案を

当社は、これまでに述べたシステム構築の分野では20年を超える豊富な実績を持っており、さまざまなメカやベンダの優れた製品を取り扱ってきました。これまでに培ってきた数多くの経験とノウハウを活かし、お客様の優先度に合わせた最適な製品を選択していただけるよう複数の選択肢を提示し、段階的な導入や投資効果の検証を含めたトータルな支援を行う、これをVITAというソリューションで具現化しています。

当社では、VITAの豊富なサービスメニューを用意し、アセスメント、デザイン、インプリメントの各サービス別に、仮想化プラットフォーム構築メニューやITIL環境構築サービスメニューなどをラインナップしています。今後は、VITAのコンセプトを、クラウドコンピューティングの活用方法の提案などにも積極的に活かしていきます。

例えば、システムの利用状況やセキュリティ管理レベルに応じて、プライベートクラウドとパブリッククラウドを上手に使い分けることにより、自社保有のIT資産を圧縮し、ITコストの最適化を加速できます。また、クラウドに分散するアプリケーション同士を連携させるソフトウェア開発にも対応します。VITAは、クラウド時代のビジネスモデルにマッチする、最適なソリューションを提案していきます。

(第三SIソリューション事業部 田中正弘)

ム運用管理、ITサービス管理に関するベストプラクティスを集めたITIL (Information Technology Infrastructure Library) の導入によるプロセス改善が主流となってきていますが、システム変更の自動化までは実現できていないのが実態です。

VITAでは、ITIL運用管理ツールとサーバ管理ツールを連携させる複合ソリューションを提唱しています。これにより、仮想化システムにおいても、ITIL準拠の標準プロセスに従って仮想サーバ管理の自動化を実現できます。その結果、利用者が望むシステムリソースをタイムリーに入手できるようになります。

仮想化システムの セキュリティを強化

VITAは、仮想化システムのセキュリティをより強固なものにします。

多数の物理サーバが散在するシステムでは、防御対策に多くのコストと手間がかかり、セキュリティレベルの維持管理も困難です。こうしたセキュリティリスクは、仮想化技術を用いたシステム統合により大幅に改善されますが、それだけですべてを解決できるわけではありません。仮想化シ

ステムのセキュリティをより強固なものにするためには、管理サーバそのものへのアクセス制御対策を実施することが重要です。また、仮想マシンや仮想ネットワーク独特のセキュリティ管理手法が必要になります。

VITAでは、こうした課題に対しても、主要各社のセキュリティ製品を用いて、ベスト・オブ・ブリード方式で最適なソリューションを提案しています。

もう一つ、VITAの付加価値として、「IT資産の可視化」が挙げられます(図-2)。

企業では、活用頻度の極めて低いサーバ、保存期間を過ぎたデータや重複ファイルが保存されているストレージ、購入ライセンス数と使用ライセンス数の差異が著しいソフトウェアなどが存在し、自社のIT資産の活用の実態や無駄を十分把握できていないケースが往々にして見られます。IT資産の統合などによってこれらを数値化し、目に見える形で把握していくことは、さまざまな無駄の解消に繋がります。

例えば、多数の物理サーバ群を仮想化して企業内クラウドを構築することによる遊休資産の削減、複数のストレージの集約によるストレージ利用効率の向上、IT資産管理ツールを導入し全社のIT資産を可